

全軟連

— Z E N N A N R E N —

NEWS

2022
winter
Vol.3

特集

子供たちの 野球環境を考える

巻頭対談

斎藤佑樹 × 小林三郎

子供たちの明るい未来のために
軟式野球の「これから」を語ろう



公益財団法人
全日本軟式野球連盟

全日本軟式野球連盟専務理事

小林三郎



巻頭対談

子供たちの明るい未来のために 軟式野球の“これから”を語ろう

2021年シーズンをもってプロ野球を引退した齋藤佑樹氏。現在は「野球未来づくり」をテーマに様々な野球振興活動を行っている。この度、そんな齋藤氏と全軟連・小林三郎専務理事の対談が実現。野球界が抱える課題や可能性について意見を交わしました。

株式会社齋藤佑樹代表取締役

齋藤佑樹



子供たちが
自分で考えられる
環境さえあれば、
「勝負」と「楽しさ」は
自然と共存できる。



小林 齋藤佑樹さんといえば、やはり「パンチ王子」として話題になった2006年の甲子園が思い出されますね。齋藤さんのマウンドでの爽やかな佇まいが、それまでの高校野球の泥臭いイメージを一新してくれたように思います。

齋藤 ありがとうございます。そう思っていたのは嬉しいですね。

小林 中学までは軟式野球をされていたようですが、子供の頃はどんな指導を受けていたのですか？

齋藤 何か特別な指導を受けたということはなく、多くの方と同じように野球漬けの毎日でした。父に教えてもらうこともありましたけど、その時も厳しく指導されましたね。

小林 いわゆる、昔ながらの気合と根性の野球といった感じでしょうか。

齋藤 まさにその通りです。でも、僕にとってはそれがすごく大事でした。泥だらけになって、必死で白球を追いかけることに美徳を感じていたからこそ、プロまで野球を続けてこられたと思います。

「勝負」と「楽しさ」を両立できる 主体性を持たせれば両立できる

小林 昨今は単に少子化というだけでなく、スポーツの多様化によって野球人口が減少しています。それに加えて、野球は用具を揃えるのにお金もかかる。その課題を解消するために全軟連

も様々な取り組みを行っています。齋藤さんは今の子供たちの競技環境についてはどうお考えですか？

齋藤 特に都会の子供たちは、キャッチボールをする場所すらありませんね。競技人口を増やすためにも、そして野球の楽しさを知ってもらうためにも、身近なところで野球ができる環境の整備を僕たち大人が率先してやっていかなくてはと感じています。

小林 齋藤さんが考える「野球の楽しさ」とは、どんなことでしょうか？

齋藤 僕自身の経験で言うと、何より試合に出ることが楽しかったですね。ヒットを打った、三振をとった、それが純粹に楽しい。だから、人数が集まらないなら6対6でもいいし、難しいルールも後からでいいので、とにかくゲーム形式でプレーさせてあげたいんです。そうすれば、ボールで遊ぶ楽しさを知ってもらえるかなと。

小林 どうしても大人は「楽しむ」とよりも「勝つ」ことを優先してしまっていて、勝利至上主義が問題になることもありますね。

齋藤 もちろん勝てたらさらに楽しいですけど、負けから何かを学んで、「どうやったら勝てるのか」を考えるプロセスも結構楽しいものだと思うんです。そこに大人が過剰に介入してしまつと、一気にやらされてる感じが出てきてつまらなくなる気がします。

小林 たしかに、指導者や父兄の方々が子供たちを応援してくれること自体

提言内容

2・3

子供たちの志向に応じたスポーツへの多様な体験機会の確保 地域のスポーツ団体等と学校との連携・協働の推進

地域の実情に応じて、実施主体として**多様なスポーツ団体等**(総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、クラブチーム、プロスポーツチーム、民間事業者、フィットネスクラブ、大学等)を想定しながら対応。

学校関係の組織・団体(地域学校協働本部や保護者会等)も想定。特定の運動種目に専念する活動だけでなく、休日等におけるスポーツ体験教室や体験型キャンプ、レクリエーション活動、複数の運動種目を体験できる活動、障害の有無に関わらず誰もが参加できる活動など、**生徒の状況に適した機会を確保**。適切な活動日数や活動時間とする。



WHY?

提言が生まれた背景

- ◆ 少子化の中でも、将来にわたりスポーツに継続して親しむことができる機会を確保。
- ◆ 学校の働き方改革を推進し、教員の部活動の負担を軽減し、学校教育の質も向上。
- ◆ 地域での多様なスポーツ環境を整備し、子供たちの多様な体験機会を確保。

取り組むべき7つの課題と対応

02 指導者の質・量の確保

課題

専門性や資質を有する指導者の確保。教師等の指導経験者から地域でのスポーツ指導を強く希望する者もいる。

求められる対応

指導者資格の取得や研修の実施の促進。JSPOは、競技団体等が主催する大会において、公認スポーツ指導者資格の取得を義務付け。

部活動指導員、教師等による兼職兼業、企業・クラブチームや大学からの指導者の派遣、地域のスポーツ団体等と連携した人材バンクの設置など。指導者の確保など国の支援の検討。

希望する教師が円滑に兼職兼業の許可を得られるよう、国は許可の対象となり得る例を周知する。

01 スポーツ団体等の整備充実

課題

受け皿となるスポーツ団体等の整備
地域スポーツ団体と中学校等との連携

求められる対応

国は各地方公共団体における取組の参考となるよう、連携や支援を先進的に取り組んでいる事例をまとめて提供。

地域の実情に応じた支援体制の整備。中学生を受け入れるスポーツ団体等に、必要な予算の確保やスポーツ振興くじ(toto) 助成を含めた多様な財源を確保。



どうなる!? 中学校の部活 変わる子供たちの野球環境

スポーツ庁「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」ポイント解説



2022年6月に運動部活動の地域移行に関する検討会議において、ある提言がスポーツ庁に手交されました。

それは公立中学校の休日の部活動(運動部)を地域に移行する方針を含むもので、

軟式野球に関わる、競技団体や指導者のみならず、スポーツに携わる関係者に大きなインパクトを与える内容でした。

そこで今回「全軟連NEWS」では、スポーツ庁からの「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」の内容を一部抜粋し、そのポイントを解説していきます。

提言内容

1

公立中学校での
休日の部活動を段階的に地域移行。
将来的には平日の部活動も地域へ



スタート時期 令和5年～7年度末を目途

まずは休日について着実に進めた上で、次のステップとして平日に取り組むことを基本とする。地域の実情等に応じて平日と休日を一体として構築するなどもあり得る。市町村において、地域スポーツ担当部署や学校の設置・管理運営を担う担当部署、地域スポーツ団体、学校等の関係者からなる協議会を設置し、活動の実施主体やスケジュールなどを検討し実行していく。

改革の方向性 まずは休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とします

(地域移行の目標期間: 令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途)

令和5年 令和6年 令和7年 令和8年



地域移行に向けた改革集中期間

進捗状況を検証し、更に改革



スポーツ新時代に向けて 軟式野球の指導者の心構えとは

スポーツ庁からの提言。 その影響とは

野球のみならずスポーツ界全体が大
きな方向転換を求められています。こ
れまでの当たり前だったスポーツの日
常が変化していくことでしょう。

一例をあげれば「優勝決定」や「ト
ナメント方式」などの大会の在り方
あるいは「レギュラーの固定化」など
についても、様々な意見と変更点が出
てくると思います。大切なことは今回
の提言全体を、競技団体や指導者も
ちろん、保護者も理解して「子供が主
役」の観点で協議を進めることが必要
だと考えます。

子供たちの野球環境は どう変化するのか

提言では「志向に応じた場の設定」
が求められています。全軟連ではすで
に一般の部において、Aクラス、Bクラ
スといった種別分けをした大会を実施



スポーツ庁「運動部活動の地域移行
に関する検討会議」委員
兼 全日本軟式野球連盟
少年部会 部会員

石川 智雄

新潟県長岡市生まれ58歳。中学校
保健体育科教員を28年、教頭1年
(54歳で退職)現在は長岡市スポ
ーツ振興課勤務。(市教育委員会併
任、市スポーツ協会併任)。平成27
年から3年間(公財)日本中学校体育
連盟軟式野球競技部長。令和3年よ
り(一社)新潟県野球連盟理事長に
就任している。

している実績もあります。また多くの
地域で独自に「ベンチ入り全員試合出
場」「独自の投球数制限」「リーグ戦」「リ
ントリー制」などを採用した大会や、
「スポーツマンシップ賞」「フェアプ
レー賞」などのチーム賞の設定など
です。このノウハウを生かしながら、野
球の持つ魅力を発信し、「子供が主役」
の野球環境に変化することが望まれて
います。

指導者に求められること

「勝利」を目指し本気で取り組んだ結
果、勝ち負けいずれの場合も学ぶも
のが多いのは事実です。しかし、そ
の前に、スポーツの本質を理解する
ことを基本とし、「目的」と「目標」
の違いを明確にしなければなりません。
「子供たちのため」といいながら、
指導者や保護者が「自分のため」に
勝利を求めるようなことがないよう
にすることが必要です。

また、「健康面での配慮」と「人格

スポーツ新時代に向けての 第一歩とは

を尊重した」対応は絶対に必要です。
チーム運営するうえで、参加者のニー
ズを把握し、指導陣がチームのビジョ
ンを伝え、立場を問わず意見交換が
できる指導者が信頼を獲得してい
くでしょう。

加えて、提言の1つには「有資格
者による指導の必要性」との指摘が
あります。残念ながら野球は、他の
スポーツと比べて資格を持つ指導者
の割合が極端に低いです。地域から
選ばれるスポーツ、選ばれるチーム
になるために、よりいっそう社会か
ら信頼されることが不可欠です。

「理想はわかるけど現実…」とい
う指摘が多いことと思います。全て
を一気に解決はできません。それぞ
れができることから実行することが
将来への第一歩になります。野球は
これまで圧倒的に人気でメジャーな
スポーツでした。それゆえに、チ
ーム運営や振興、資格制度などのこ
とを気にせず進んできました。今回
の提言を受け、特に中学生層の子供
たちが軟式野球を続けやすい環境整
備を実現できるか。それが今後の野
球人口推移に大きく関係していき
しょう。人々が、時代が現在のスポ
ーツに求めていること。その本質を認
識する勇気が必要です。

取り組むべき7つの課題と対応

05 会費の在り方



課題

会費が保護者にとって
大きな負担にならないか。

求められる対応

- 学校施設の低額での貸与など地方公共団体や国からの支
援、地元企業の施設の利用や用具の寄付等の支援。
- 困窮する家庭へのスポーツに係る費用の補助や、地元企業か
らの寄附等による基金の創設など、支援方策も検討。

06 保険の在り方



課題

安心してスポーツ活動に参加するための、
生徒や指導者の怪我等の補償

求められる対応

- 国は、JSPO や各競技団体を通じて、地域のスポーツ団体等
に対して、指導者や会員の保険加入を強く促す。
- 地域の実情に応じた支援体制の整備。中学生を受け入れるス
ポーツ団体等に、必要な予算の確保やスポーツ振興くじ
(toto) 助成を含めた多スポーツ安全保険について、国から
スポーツ安全協会に補償内容の充実を要請。

07 関連諸制度等 の在り方



課題

教師が顧問となる前提の関連諸制度を地域
スポーツでの活動へと見直し。

求められる対応

- 学校は、地域で行われるスポーツ団体等と連携・協働を深
めることを規定することなどの見直しを検討。
- 高校入試などは部活動の調査書のみならず生徒による自己評
価資料、面接や小論文など入試全体を通じて多面的に評価。
- 教師の採用・評価など、部活動指導に係る意欲や能力等につ
いて過度に評価していることがあれば、適切に見直し。

03 スポーツ施設の 確保方策



課題

既存のスポーツ施設だけでは足りない地域
も想定される。学校体育施設の利用、施設
管理の負担。

求められる対応

- 学校体育施設の活用を促進するため、地方公共団体やス
ポーツ団体等が連絡・調整するための協議会を設立し調整
を行う。
- 施設利用の促進・学校の負担軽減のため、放課後や休日の
学校体育施設の管理を、指定管理者制度を活用するなどして
スポーツ団体等に委託。

04 大会の在り方

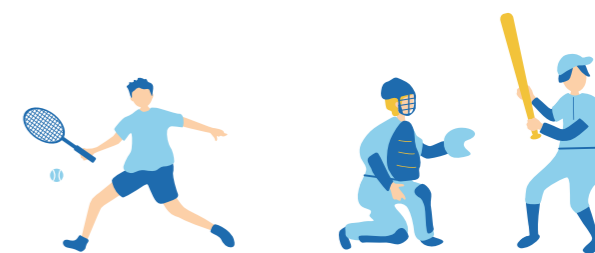


課題

参加資格が学校単位の大会を見直し。
中体連と競技団体が主催する全国大会が併
存。勝利のための練習の長時間化・過熱
化による怪我や故障、行き過ぎた指導等を
防止。休日の大会参加の引率への対応。

求められる対応

- 国は地域のスポーツ団体等も参加できる大会に対して、引き
続き支援。地方公共団体も支援の在り方を見直し。
- 地域において、自分なりのペースでスポーツに親しみたい生
徒や複数の運動種目を経験できる活動に参加している生徒等
の成果発表の場としてふさわしい大会を整備。
- 生徒の心身の負担や保護者の金銭負担が過重にならないよ
う、国からスポーツ団体等に対し、全国大会の開催回数
の精選を要請。一般公募によるスポーツボランティアの活用。
- 大会運営は主催者である団体等の職員により担われるべきで
あり、国から団体等に対し、大会運営体制について適切に見
直すことを要請。





チーム紹介 あなたのまちの ナイスチーム



ジャンクベースボールクラブ 一般社団法人ジャンク野球団

ジャンクベースボールクラブは2003年に札幌で設立され、その後2007年に東京に移転。現在は横浜市緑区を拠点に活動しています。当初は草野球を純粋に「楽しむ」ことを目的に立ち上げられましたが、代表を務める若松健太さんが2009年に東北楽天ゴールデンイーグルスの臨時トレーナーを務め、聖澤諒氏と縁が出来たことが転機となり、甲子園や大学野球で活躍した選手たちも集まるようになりました。今では「楽しく強い」チームづくりへとシフトしているそうです。

ジャンクベースボールクラブの特徴は、軟式野球チームとしては珍しく一般社団の法人格を取得し、様々な社会貢献活動を実践していることです。チームスポンサーであるユニオンソーシャルシステム株式会社が行う硬式

野球ボールの修繕を通じた障がい者就労支援を応援したり、小学校や特別支援学校でベースボール5をレクチャーしてスポーツの素晴らしさを体験してもらったりと、地域に向けているんな取り組みを行っています。

「私たちはみんな野球で人生のルートを作ってもらってきたので、やはりそのことへの恩返しをしたいな」と。ベースボール5の普及活動にはジャンクの若い選手たちも連れていくのですが、障がい者の方々や子どもたちと触れ合うことによって彼らの社会性も磨かれていると感じます」（若松さん）

このチームは以前全軟連の登録から一度外れましたが、横浜市緑区にて再登録を果たしています。それによって競技はもちろん、グラウンド外の活動もやりやすくなったそうです。

「緑区を野球で盛り上げたいという思いもあって再登録しましたが、障がい者支援や野球の普及活動を行う際にも地域との連携がしやすいですね。競技のほうでも、企業チームではない我々がどこまで行けるかが勝負になります。全軟連への登録によってチャレンジできる環境がさらに整いました。高松宮杯への興味もありますし、これから経験値や知名度を上げて、チームとしてもっと発展していきたいと思っています」（同）

ただ技術を追求するのではなく、人間力野球にこだわりたいと言う若松さん。これからもジャンクベース

川口クラブ

川口クラブは2005年に発足し、当時は川口市内のレベルの高い選手を集め、全国大会優勝を目標にしていました。しかし2020年に全員加入型クラブとして再スタートを切ったからは、その目標も維持しつつ、トップを目指す子から軟式野球を楽しみたいという初心者まで、幅広い需要に応える仕組みを提供しています。

「勝利至上主義ではなく、勝利志向主義。やはりスポーツは勝敗を求めてやるもので、勝利を目指さないのは野球の本質から外れてしまします。ただ、子どもたちの発達段階に応じて指導方針を変えていく工夫は必要です」

川口クラブで指導を行う川口市立芝東中学校教諭の武田尚大さんは、選手をトップ・ミドル・育成という3つの層に分けることで、それぞれが頑張れる環境を整えているといいます。「トップはある程度競争があるので厳しい指導もしますし、試合に出られない可能性があるので子どもたちも理解しています。一方、ミドル層では経験値を積むことが最優先。試合に出る機会は平等です。育成では基本的な技術を向上させる指導を行っています」

います」

選手の中学卒業後を見据えた動きもスタート

高校で硬式野球を始める中学3年生には、提携している東京江戸川ボーイズに移籍する形で硬式体験をさせてもらう取り組みがスタート。「いちばん伸びる時期を無駄にしてほしくない」と、卒業生の進路のケアも怠りません。

武田さんは、埼玉西武ライオンズや県野球連盟、県高野連なども参画する「埼玉県野球協議会」の設立にも尽力されました。数々の野球組織を束ねるのは大変だったようですが、実現できたポイントは何だったのでしょうか。

「目標を『子どもたちの野球の未来を築くこと』と明確に絞ったこと、そして、競技人口減少など野球界の課題に対する危機感をきちんと共有できたことです。ライオンズがトップに立ってくれたことも大きかったですね。野球人口を増やすと同時に、継続率を上げるための受け皿もしっかりつくっていく。そのためには指導者の改革も必要です。大人が今手を取り合うしかありませんから」

今後は川口クラブの法人化を考えているという武田さん。身を削ってやるのではなく、循環させるシステムを作っていきたいですね」と、持続可能な形での野球振興を目指します。



チームの長所	主な活動場所
子どもたちの発達段階に応じて指導方針を変え、上級者から初心者まで幅広い需要に応えられる仕組みを提供している川口クラブ。競技継続の受け皿づくりのため、持続可能な野球振興を追求しています。	埼玉県川口市
	所属人数
	3学年で約300名
	成績
	全国中学生野球選手権準優勝



チームの長所	主な活動場所
野球を通じて、スポンサー企業が取り組む障がい者就労支援活動を発信。障がい者や子どもたちへの競技普及活動にも尽力。社会性を養い、「人間力野球」で勝負するチーム。元プロやアマチュアトップ選手も所属しています。	神奈川県 横浜市緑区
	所属人数
	45名

ボールクラブでしか体験できない価値を創造していくと力強く語ってくれました。

これさえ読めばだいたいわかる

野球のルール

超・初級編

福岡ソフトバンクホークス
柳田悠岐選手も絶賛!
これは野球ファンが増えそうなおもしろい!
ルールを楽しく覚えて、
野球を見よう! 始めよう!

これさえ読めばだいたいわかる 野球のルール 超・初級編 feat.kishiboy

発行:株式会社ベースボール・マガジン社
著者:中野良一・木谷友亮
監修:公益財団法人 全日本軟式野球連盟
価格:1,320円(税込)
発売日:2022年10月28日

本連盟が監修として携わった「これさえ読めばだいたいわかる 野球のルール 超・初級編 feat.kishiboy」が、ベースボール・マガジン社より発売されます。本書は超・初級編のタイトルの通り、小学校低学年以下のお子さんやその保護者を主なターゲットに、野球のルールや魅力を簡易的な表現とイラストを用いて、ユーモラスなキャラクターKishiboy・Kishigirlの絵で解説しています。「野球って、むずかしくない?」と知っている人がいるとすれば、「それはもった

いない!」だって野球は、本当は世界中の誰が見てもやっても楽しめるスポーツ。という思いから「これさえ知っていれば何とかなる」ことを超・初級編としてまとめました。野球に興味を持ち始めた方、野球にあまり興味のない方でも、野球を見てみよう・やってみようと思えるような楽しい内容になっています。野球振興策の一つとして本連盟も関わっておりますので、書店にて是非お手にとっていただきますよう、また、広く情報発信いただきますようお願い致します。



実践! グッドコーチング - レベルアップ編 -

制作協力:スポーツ庁/日本スポーツ協会
執筆協力:伊藤雅充(日本体育大学教授)、
土屋裕睦(大阪体育大学教授)、
実践!グッドコーチング制作プロジェクト
編者:PHP研究所
価格:660円(税込) ※書店等での市販はしていません

シリーズ累計8万部突破!ハラスメント防止に役立つテキストの第3弾。本書では、コーチの皆さんが日頃のコーチング活動において直面する日常的なケースを取り上げ、ハラスメントなくプレーヤーの成長を支援するためのヒントを解説。第一線で活躍する12名の専門家のノウハウを凝縮した一冊!

(購入・お問合せ)
株式会社 PHP研究所 法人教育普及部(担当:茂原様)
TEL:03-3520-9632 FAX:03-3520-9648
〒135-8137 東京都江東区豊洲5-6-52 NBF豊洲チャンネルフロント



中条ブルーインパルス

中条ブルーインパルスが発足したのは昭和59年。かつては勝利至上主義が根付いていた時代もあったそうですが、子どもたちの健全育成のために昔ながらの悪習を取り除き、今から15年ほど前、子どもの意見を取り入れていく方針に大きく転換したそうです。

「それ以降大事にしているのが『対話』です。その一環として、基本的にはサインを出さず、子どもが主体的に声かけできる環境づくりを心掛けています。その声かけがたとえ間違っていたとしてもいいんです。子ども同士が一緒になって考えることが大事です」と、同チーム元監督で現代表の尾崎弘由さんは語ります。

学童は野球の入口となる世代であり、いかにこの世代に野球の魅力が伝えられるかがその後の継続率にも影響します。特に初心者と接する時は、どんなことを心掛けていくのでしょうか。

「野球難しいスポーツと思われるという工夫をしています。学童保育のようなスタンスですね。例えば柔らかいボールや短くて軽いバットを使って、ボールが遠くに飛ぶことが楽しいと思ってもらえるようにしています」

入団希望者は保護者の紹介で来ることが多く、「ブルーインパルスに入ると挨拶ができるようになる」「礼儀正しくなる」という口コミがきっかけで入団するケースが多いそうです。

「ただ挨拶しなさいというだけでなく、なぜ挨拶しなくてはいけないのか、なぜ靴を揃えなくてはならないのか、理由をしっかり伝えます。指導者たちは『野球を教える』のではなく『野球で教える』という意識を持っています」

夢中になれること、対話を重視した指導をモットーに

今年のマクドナルド・トーナメントでは全国制覇を果たしたブルーインパルスですが、頂点に立った今こそ「勝ちからの切り替えが大事」と語る尾崎さん。「子どもたちは未来にどんな向かっていく。今こそ気を引き締めていかなくてはなりません」といいます。

「何より大事なことは、学童の時期に『夢中になれること』の楽しさを経験してもらおうこと。卒業の際には、野球に縛られず夢中になることをこれからも探してくださいと子どもたちに伝えます」

強豪を目指すよりも「ブルーインパルスでこんなことを教えてもらった」と言ってもらえるチームづくり。モットーである「対話」を大事に、それを

チームの長所	主な活動場所
「子どもが主人公」という思いのもと、対話を第一に考える中条ブルーインパルス。「野球を教える」よりも「野球で教える」という人間教育に重きを置いており、その指導方針によって入団希望者が増えています。	石川県・河北郡
	所属人数
	約40名
	成績
	第42回全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント優勝





知っておきたい

軟式野球の指導者資格制度

受講申込方法等

各資格の受講料・カリキュラム・受講方法や登録料等の詳細は連盟ホームページをご確認ください。

▶ <https://jsbb.or.jp/coaches/>

公認コーチ3

日本スポーツ協会「指導者マイページ」から申込

公認コーチ1

講習会を開催している本連盟都道府県支部または都道府県スポーツ協会に確認し、日本スポーツ協会「指導者マイページ」から申込

JSBB 公認学童コーチ

1. オンデマンド受講

全日本軟式野球連盟指導者登録システム「PlayBB-members」に登録し、受講申込

2. 集合講習

講習会を開講している本連盟都道府県支部に申込

※その他、全日本野球協会主催(BFJ)の野球指導者講習会(BASEBALL COACHING CLINIC)「学童コーチ資格取得コース」や、全国野球振興会プロ野球OBクラブ主催のベースボール・コーチング・セミナー(BCS)の「実技科目」と、本連盟支部主催の学童コーチ養成講習会またはBCCで「基礎理論科目」の履修でもJSBB学童コーチの資格取得が可能です(受講終了後に登録手続きが必要)。



JSBB 公認学童コーチと各団体指導者資格との連携

下記の資格保有者は、改めて公認学童コーチ養成講習会を受講しなくても、公認学童コーチ保有者として取り扱います。下記の資格保有者が本連盟公認学童コーチ資格の取得を希望する場合、追加講習は課しません。所定の登録料の納付により、JSBB公認学童コーチの登録が可能です。

【対象資格】

JSPO 公認軟式野球コーチ3

JSPO 公認軟式野球コーチ1

JSPO 公認スタートコーチ(スポーツ少年団)

JSPO 公認コーチングアシスタント

*旧スポーツ少年団認定員から移行登録完了した者

BFJ 公認野球指導者基礎 I (U12)

公認学童コーチ資格受講・登録管理システム「PlayBB-members」をリリースしました

2024年JSBB公認学童コーチ資格保有義務付けに向けて本資格保有者を拡大するため、web上での受講と資格認定までが可能となる公認学童コーチ資格登録管理システム「PlayBB-members」を1月31日にリリースしました。本システムでは自分の都合に合わせていつでも・どこでも講習会受講が可能なオンデマンド講習会や指導者登録後に登録証や資格・講習会の受講状況等がWEB上で簡単に出来るなど、より便利に、またコロナ禍でも安心・安全に指導者資格を取得することが可能となっております。



本連盟では、競技者の快適なスポーツライフとスポーツインテグリティ確保のため、指導者養成を最重要課題の一つとしています。学童・少年部から一般(大人)チームまでの指導者の資質と指導力の向上を図り、安全・安心な軟式野球を正しく広めるために各種指導者講習会を実施し、スポーツ指導者の養成を行っています。

公認指導者資格の種類

①日本スポーツ協会(JSPO) 公認軟式野球コーチ3

コーチ3とは、トップリーグ・実業団等でのコーチングアシスタント(指導補助)として、ブロック及び全国大会レベルのプレーヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチングを行う方のための資格。

②日本スポーツ協会(JSPO) 公認軟式野球コーチ1

コーチ1とは、地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供する方のための資格。

③全日本軟式野球連盟(JSBB) 公認学童コーチ

全日本軟式野球連盟(JSBB)公認学童コーチとは、次世代を担う学童部競技者が、野球に親しみ、安心して競技力向上とスポーツ障害などに悩まされることなく競技にあたることのできるように全日本軟式野球連盟が設置した資格。

指導者資格保有の義務付け

国民体育大会予選に出場するチームの監督

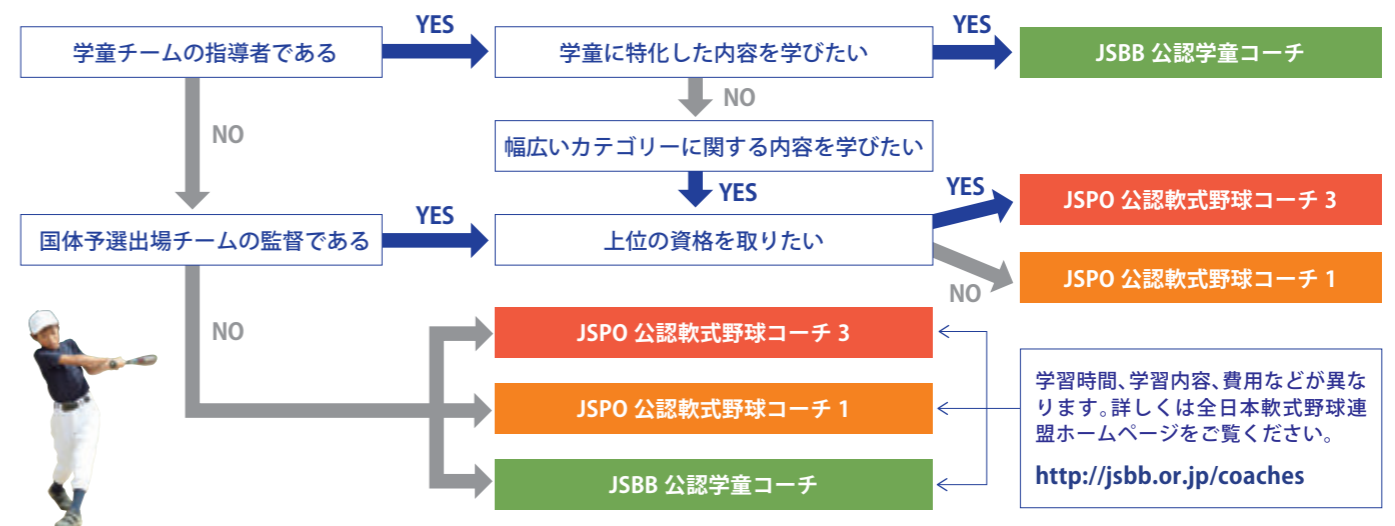
①日本スポーツ協会(JSPO)公認軟式野球コーチ3 または ②日本スポーツ協会(JSPO)公認軟式野球コーチ1 資格の保有が義務付けられている。

全日本軟式野球連盟に所属する学童チームの指導者

③全日本軟式野球連盟(JSBB)公認学童コーチの保有が2024年から義務付けられる。上位資格である、①日本スポーツ協会(JSPO)公認軟式野球コーチ3 または ②日本スポーツ協会(JSPO)公認軟式野球コーチ1 を保有していても良い。

※2022年8月現在、BFJ公認野球指導者基礎U-12、JSPO公認スタートコーチ(スポーツ少年団) JSPO公認コーチングアシスタント【旧:スポーツ少年団認定員】の保有でも可としている。

公認指導者資格の種類と選び方



RULE

2021-2022年の規程変更

2021年～2022年の間、下記の各種規程・ルール変更がありました。詳しくは、連盟ホームページにてご確認ください。(https://jsbb.or.jp/)

保護具の商標表示等に関する規程について

手袋・リストバンド・サポーター等保護具の商標表示は1箇所・大きさ14cm以下・色の規制無し。アームスリーブは、商標表示1箇所・大きさ14cm以下、野手は色の規制無し、片袖のみの着用でも可、投手はアンダーシャツと同色・両袖着用とする。

捕手(審判員含む)用マスクのSGマーク義務付け

2022年より捕手・審判員用マスクはSG基準合格品の着用を義務付けし、SGマークと合わせてJSBBマークがついている製品を着用することとしたが、コロナ禍による原材料不足で製品が十分に流通していなため、SGマークの義務付けを緩和することとした。2023年度以降に状況を見て改めて検討する。

少年・学童部のチーム編成取り扱い改訂について

過疎地などの地域的特性及び女子チームでは、近隣にチームが存在しないケースもあり、居住地とは異なる隣接都道府県のチームに所属することが認められているが、大会出場に関しては、「全大会登録者の1/3以内」の制限により、隣接地域の選手が公式戦に出場することが叶わない現実がある。居住地などの地域性を理由に不利益を被ることを回避するため、チーム構成員のうち、隣接都道府県居住者の割合1/3以内の制限を撤廃した。

投手用グラブの取扱い(縫い糸の色の制限)について

投手用グラブの縫い糸の色の制限は設けない。

選手の移動(移籍)の取扱いについて

年度内の選手等の異動は原則禁止とする。ただし、転居及びその他考慮すべき特別な理由を有する場合はこの限りではない。

ユニフォーム等への宣伝広告掲出に関する規程について

No	品目	位置	数量	大きさ
1.	ユニフォームシャツ	・右袖 ・前面の場合はチーム名の上 ・背面の場合は背番号の上	左記のうち、いずれか1か所	前面及び右袖:縦6cm×横6cm以下 背面:縦3cm×横6cm以下
2.	ユニフォームパンツ	・前面上部もしくは背面上部	左記のうち、いずれか1か所	縦6cm×横6cm以下
3.	帽子・ヘルメット	・側面もしくは背面	左記のうち、いずれか1か所	縦3cm×横6cm以下

2023年より改定予定の規程について

チーム編成について

チーム編成の人数の上限を20名以内から25名以内に変更。

キャプテンマーク(Cマーク)の掲出について

主将は「Cマーク」をユニフォームシャツの右袖または前面に限り掲出できる。

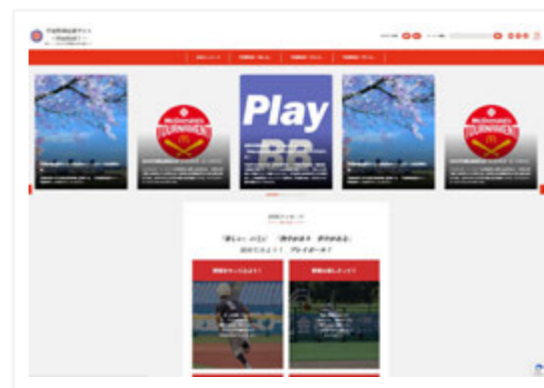
職業野球競技者の連盟復帰(アマチュア復帰)について

職業野球競技者とは、日本野球機構の球団に支配下選手として所属した者とし、支配下登録歴のない育成契約選手は含まないものとする。また、大会の選手登録は5名以内とする。

TOPICS

学童野球応援サイト「PlayBall!」開設

学童野球に携わる子どもたち・指導者・保護者などに向けて、有効な情報を発信することを目的に開設しました。サイト内では「学童野球を楽しむ」「学童野球を支える」「学童野球を育てる」の3つの構成で順次公開していきます



NEWS

連盟役員の変更がありました

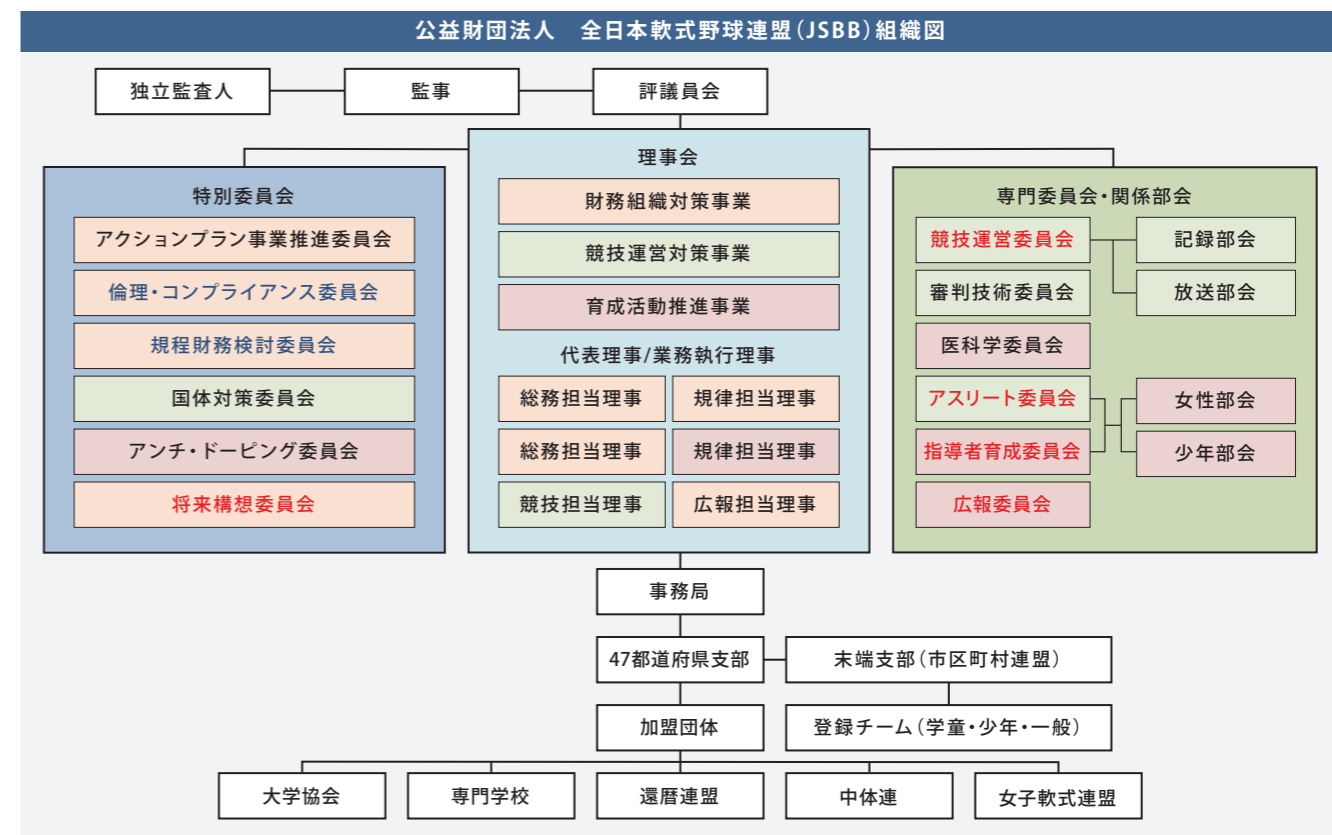
令和4年2月17日開催の第11回定時評議員会にて役員が選任され、下記のとおりそれぞれ就任しました。

会長	武内 繁和
副会長	山口 宏、堺 充廣(新任)、林 恵子(新任)
専務理事	小林 三郎
常務理事	富永 茂巳、小山 吉男(新任)、鶴 登(新任)
理事	本間 俊三(新任)、土田 良雄、宮川 良輔、山本 満、松岡 一男、宮内 将、古島 弘三、頓所 理加、元木 三十志(新任)、山本 貴己(新任)、畑中 淳子(新任)、石井 美子(新任)
監事	加藤 廣美(新任)、古賀 正治(新任)

NEWS

組織改編で新体制スタート

令和4年4月8日開催第3回理事会にて組織活性化とガバナンスコード対応を目的に、競技運営委員会、アスリート委員会、広報委員会、将来構想委員会を新たに設置し、新体制がスタートしました。



TOPICS

野球伝来150年記念事業を実施中

2022年は、1872年に外国人教師として来日したアメリカ人のホーレス・ウィルソン氏が日本に野球を伝えてから150年という記念すべき節目の年です。野球界が一体となり野球界をより盛り上げていくため、一般社団法人日本野球機構と一般財団法人全日本野球協会とが共同で「野球伝来150年記念事業」を実施しています。全軟連も本事業に協力し、登録チームへのヘルメットシールを配布いたしました。その他、様々なイベントが企画されています。詳しくは野球伝来150年特設サイトをご覧ください
(<https://japanesebaseball150th.jp/>)



NEWS

競技者登録システムを導入します

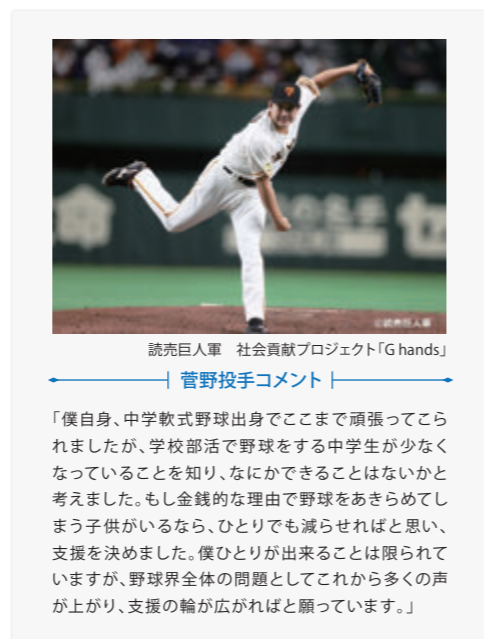
日本野球協議会が主導となり開発した、プロ・アマ野球界統一の競技者登録システム「野球ねっと」の導入を、令和2年度第5回理事会にて決議しました。本システム導入により、全軟連ではチーム登録のほか個人登録が開始されます。選手のチーム登録・会費納入・大会参加申込がデジタル化され、WEB上で登録状況やチーム・選手の成績等の確認、支部からチームやチーム間での情報発信が可能になるなど、チームおよび支部にとっても効率的で利便性の高い時代にあったツールとなっています。また、正確な競技者数を把握することにより、野球界が一体となってより効果的な野球普及振興策を展開していくことが期待されています。現在、2023年1月からの本格稼働に向けて準備を進めています。



NEWS

ジャイアンツ菅野投手とともに支援「エンジョイベースボールプロジェクト」

読売ジャイアンツ菅野智之投手が社会貢献活動の一環として、今季より小・中学生の軟式野球球児を支援する目的で「エンジョイベースボールプロジェクト」をスタートしました。菅野投手も中学校卒業までは軟式野球に携わり、ジャイアンツ入団後は抜群のコントロールを武器に数々の実績を残す一方、グラウンド外では介助犬の普及・啓発やコロナ禍の医療従事者支援など、様々な社会貢献を行っています。以前から日本の野球競技人口の減少を危惧し、その状況を食い止めるべく、「子ども達が大好きな野球ができるように、これからも続けられるように」と、アクションを起こしてくれました。連盟としては、菅野投手のご意向に賛同する形でお預かりする貴重な支援金を子ども達の野球活動のために役立てるべく、対応していきます。



読売巨人軍 社会貢献プロジェクト「G hands」
— 菅野投手コメント —

「僕自身、中学軟式野球出身でここまで頑張ってきたが、学校部活で野球をする中学生が少なくなっていることを知り、なにかできることはないかと考えました。もし金銭的な理由で野球をあきらめてしまう子供がいるなら、ひとりでも減らせばいいと思ひ、支援を決めました。僕ひとりが出来ることは限られていますが、野球界全体の問題としてこれから多くの声が上がれば、支援の輪が広がればと願っています。」

読売ジャイアンツ菅野智之投手「エンジョイベースボールプロジェクト」
内容: JSBBを通じて学童・少年部競技者のための支援金の寄付
支援金額: 菅野投手の2022年シーズンの「公式戦での投球回×1万円」

読者アンケートにご協力ください

このたびは、本連盟広報誌をご覧くださいありがとうございました。次回広報誌作成に向けて、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。また、掲載してほしい内容、ユニークなチームや注目選手・名物監督・名物審判など、広報誌が充実するような有益な情報がありましたらお知らせください。なお、アンケートにご入力頂いた個人情報、連盟から取材依頼のご連絡をする等広報誌制作の目的以外では使用いたしません。

※WEBアンケートになります。QRコード読み取り・または下記URLにてアクセスしてください。

<https://forms.gle/n9mxx75Nh2eywjpT9>

RULE

学童部で6イニング制(90分制)、ホームベースサイズの拡大を導入

学童部競技者の肘肩障害をはじめとする野球障害予防を目的に、令和4年度より下記の学童部ルールを導入しました。なお、医科学委員会では、スポーツ医学的観点から学童部競技者の野球障害予防と野球環境改善に有効なルールについて引き続き検証を行い、導入検討を行ってまいります。また、ルール制定と併せて指導者養成も重要な対策として継続的な教育啓発を行ってまいります。

	導入ルール	取り扱い	目的
1)	6イニング制・時間制限(1時間30分)の採用	試合は、6回戦とする。 但し、試合開始後、1時間30分経過以降は、均等回完了をもってゲームは終了する。	投手ならびに捕手の投球数(返球数)の減少ならびに時間短縮による健康管理。
2)	ホームベースサイズの拡大	ホームベースは、一般用を使用する。	サイズ拡大による投手の負担軽減

*ホームベース拡大に伴うバッターボックスの区画については、下記として設定をお願いします。
*本塁両端からバッターボックスまでの距離は、学童区画の13cmとし、バッターボックスの区画も学童区画の長辺1m50cm×短辺90cmとする。

NEWS

熱中症対策として大会の2部制導入

ここ数十年の気候変動による酷暑で、毎年真夏に行われる子ども達の大会では熱中症対策が大きな課題の一つとなっています。選手やチーム関係者・スタッフの健康と安全のため、今年の第42回全日本学童軟式野球大会では、12時～16時の間を避けた競技日程にて大会を行いました。連盟では今後も様々な環境・様式変化に対応しながら大会運営を行ってまいります。

TOPICS

令和4年度大会結果一覧(3月～8月)

文部科学大臣杯第12回全日本少年春季軟式野球大会 会期: 3月21日(月)～26日(土) 会場: 静岡県静岡市 優勝: 鹿児島県代表 日章学園 鹿児島育英館中学校 準優勝: 愛知県代表 名古屋ジャース	第44回西日本軟式野球大会1部 会期: 5月13日(金)～16日(月) 会場: 山口県周南市 優勝: 鹿児島県代表 鹿児島サニクリーン 準優勝: 福岡県代表 山水荘ベースボールクラブ
第5回全日本シニア軟式野球大会ドクラッセトーナメント 会期: 5月27日(金)～30日(月) 会場: 埼玉県さいたま市 優勝: 東京都代表 コスモ 準優勝: 山口県代表 宇部クラブシニア	第44回東日本軟式野球大会1部 会期: 5月27日(金)～30日(月) 会場: 北海道北見市 優勝: 愛知県代表 中央発條 準優勝: 北海道北代表 旭山倶楽部
第44回東日本軟式野球大会2部 会期: 5月27日(金)～30日(月) 会場: 北海道網走市 優勝: 富山県代表 豊富産業株式会社 準優勝: 石川県代表 オオタケサンライズ	第44回西日本軟式野球大会2部 会期: 6月10日(金)～13日(月) 会場: 大分県大分市 優勝: 大分県代表 戸高ベースボールクラブ 準優勝: 香川県代表 ITALY
NPBガールズトーナメント2022 会期: 7月29日(金)～8月5日(金) 会場: 石川県金沢市 優勝: 和歌山県代表 和歌山ハーモニーズ 準優勝: 岐阜県代表 岐阜選抜ドリームス 第3位: 栃木県代表 栃木スーパーガールズ・京都府代表 京都ガールズ	高円宮賜杯第42回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント 会期: 8月8日(月)～14日(日) 会場: 東京都新宿区 優勝: 石川県代表 中条ブルーインパルス 準優勝: 前年度優勝(大阪府) 長曽根ストロングス 第3位: 埼玉県代表 熊谷グリーンタウン・大阪府代表 新家スターズ
第39回全日本少年軟式野球大会 会期: 8月22日(月)～25日(木) 会場: 神奈川県横浜市 優勝: 東京都代表 江戸川区立上一色中学校 準優勝: 愛知県代表 名古屋ジャース 第3位: 広島県代表 三和クラブJr.・石川県代表 星稜中学校	第7回全日本中学女子軟式野球大会(SPトーナメント) 会期: 8月19日(金)～25日(木) 会場: 京都府京都市 優勝: 栃木県代表 オール栃木 準優勝: 兵庫県代表 神戸レッドガールズ 第3位: 奈良県代表 香久山ビッグメイツエンゼルス・福井県代表 福井ダイヤモンドガールズ



公益財団法人
全日本軟式野球連盟